第1回関西出版社制作勉強会（研文社尼崎工場を視察） DOD出版センター （ 文化通信bBB 2016/5/30掲載）

書店システム SUPER BOOK SHOP

■第一回関西出版社制作勉強会　研文社尼崎工場を視察!

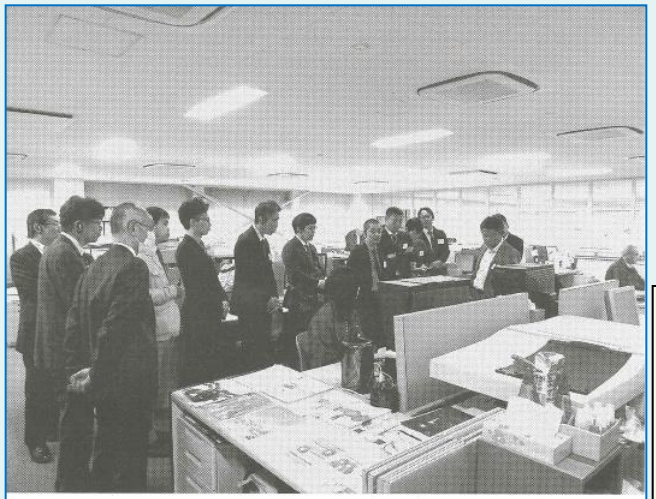
2016年（平成28年）5月30日（月曜日）増刊　第4256号　（1）

出版産業のシステムとマーケティング情報
文化通信 bBB
Bunkatsushin Book Business

16年5月30日号

■写真で見る出版業界の潮流
ロンドン市内の書店を巡てまわる……3～5
■第1回 関西出版社制作勉強会…6
研文社尼崎工場を視察
DOD 出版センター
■ねこの手お助け隊！書店さんの
お悩み解決しまーす！」……7
ACADEMIA ちはら台店
（千葉県市原市）
■HonyaClubで見る市場……8
●話題を作って読者を店頭へ！！
～本屋大賞受賞作でみる
併売書の場売～

System 制作 物流
業者連携による画期的な出版インフラ、ついに本格始動
デジタル・オンデマンド出版センター


刷版やオンデマンド工程を完結させるソリューソン部ルームを見学する参加者

柴崎運営委員長

オンデマンド印刷により、小ロットでも低コスト・高品質を実現させる目的で設立したデジタル・オンデマンド出版センター（DOD出版センター）は、ウェブ上で見積もりや仮発注、制作工程の把握までできるプラットフォームを開発し、5月10日からサービス（無料）を始めている。

同16日には関西の出版社が参加して「関西出版社制作勉強会」を開催。第1回は同センター参画社でもある印刷会社の研文社（本社・東京）尼崎工場（兵庫県尼崎市）を訪問し、データ入稿から編集、製本に至るまでの製造工程を見学するとともに、DOD出版センター発足の経緯や受発注プラットフォームの概要、利用方法などについて説明した。

■12社から14人が参加

DOD出版センターは、光和コンピューターをはじめ、印刷、印刷機器メーカー、流通、システムなどの企業が協業する事業。今回は70年の業歴があり、関東、関西に主場や配送センターを持つ研文社の尼崎工場見学に、関西の出版社12社から14人が参加した。

■CTPルーム無人化でコスト削減実現

勉強会冒頭、研文社・網野勝彦社長が、「関西のメーカーを取引相手に培ってきた『多品種・小ロットをいかに低コスト化するか』のノウハウを提供できる。中でも自動車メーカーのカタログ、説明書づくりの仕事は、メーカーサイドの厳しい要求を完遂してきた。その経験はきっと皆さんのお役に立てると考えている」とあいさつ。

製本の印刷機械は通常、丁合機で1枚1枚重ねて出てくることから、その工程で、落丁・乱丁が発生することがある。しかし、同社の機械は1枚に繋がった折丁（蛇腹状）で排出され、最後に断裁するため、落丁乱丁が出ないことが特徴のひとつ。これは国内では同社のみで扱っている仕様だという。

また同社では、入稿から刷版、オンデマンド、原稿チェックなどの工程全てをソリューション部ルームで完結させている。これにより工場内の、CTP（コンピューター・トゥ・プレート）ルームの無人化に成功。コストダウンにもつながっている。

CTPルームは無人のため1人による原稿確認作業は行われないが、ソリューション部ルームで検査員らが入念にチェックすることで、この仕組みを導入した1999年以降、キズや汚れなどの事故、クレームはゼロだという。

ソリューション部ルームと工場のオフセットエリア、オンデマンドエリアの見学を終えた参加者からは、「インクジェットでの印刷は水性顔料と聞いたが、水を付けても滲まなかった。耐水性があることがわかった。安心して利用できる」などの意見が聞かれた。

■ウェブ見積もりサービスを説明

続いて、DOD出版センターの趣旨や特徴と、新サービスのウェブ受発注プラットフォームにつて説明が行われた。

DOD出版センターは10冊から対応し、単発のコストダウンに留まらず継続的な出版活動サポートを掲げる。

ロール式インクジェット印刷機やトナー印刷機など、状況に適した機械を使用。カラーは1ページごとの金額対応。PDF入稿でも底本からのスキヤンでも可能。初版300冊以上の場合はカバーとスリップを無料で印刷する（増刷は10冊から）。

新サービスの受発注フォームは、ウェブ上で利用できる。IDとパスワードを発行し、入稿形態、仕様、ページ数、判型など必要項目を入力すれば、見積もりが自動計算される。この結果をプリントアウトし、会議に利用するなど用途は幅広い。

仮発注後の詰めの作業（紙の種類や納期など）は、センター事務局が対応することで、フオロー体制も整えている。

すでにIDとパスワードを取得し、利用している参加者もいて、「使いやすい。便利」という声があがっていた。

■”餅は餅屋”のサプライチェーン

DOD出版センター・柴崎和博運営委員長（光和コンピューター）は、センター発足の経緯について「出版物の売上げが96年をピークに年々下がっているが、いったいどこが底なのか。こうなると業界でイノベーションを起こし、自らの力で上げていくしかない。本を求めている人が少数でもいるのなら、小ロットでも作れる仕組みが絶対に必要。r欲しい人に本を届ける』、この普通の環境に出版業界もならなければならない」とし、「出版社と印刷会社との商談や打ち合わせをもっと効率化するべき。そこでウェブプラットフォームによって効率良く出版社と印刷会社が付き合い、データも全てオープンにできる環境をつくりたかった」と述べた。

そして最後に「協業社の中には物流会社も参加している。『餅は餅屋』、専門分野が集まったサプライチェーンでの事業。コストも安いと自負している。販売チャンスを逃さず、読者がいる場所に本を届ける仕組みづくりに役立ちたい」と語った。

参加者からは「現場ではオンデマンド出版の需要が高まっている。価格がわかりにくい印刷会社などもあり困惑していた」、「会社に戻ってさっそく見積もりを出したい」など関心の高さが伺えた。

詳細は光和コンピューター内の同センター　03（3865）1981／ホームページhttps://www.dodpcenter.com/